

3月3日（月）「ルビンのつぼ」

全校のみなさん、おはようございます。

これから、1枚の絵を見てください。どのように見えたでしょうか。

何が見えましたか？

この絵は、白い方に注目すると、壺やテーブル、砂時計に見えますが、黒い方に注目すると、向かい合っている人の顔に見えます。

この絵は、「ルビンの壺」といって、心理学でとても有名な絵です。同じ物を見ても、ちょっと見方を変えるだけで、違って見えることがあるという実験です。

みなさんはこれまでの経験ですでに「いろいろな見方」をしています。例えば、「算数はおもしろい」と感じている人もいれば、「算数難しくて、つまらない」と感じている人もいるでしょう。同じ算数をしていても、「見方」によって感じ方は変わります。だとしたら、自分の見方をちょっと変えて、算数のおもしろさを発見した方が、楽しく過ごせますね。

また、クラスに「あの子のことは、苦手だなあ」と感じている人がいるかもしれませんが、少し見方を変えると、その人の「よさやすてきなところ」が見つかるかもしれません。

苦手なこと、嫌いなことから避けていることがあるかもしれませんが、ちょっと見方を変えて、試してみるとそこまで苦手ではなくなったり、むしろ好きになったりすることがあります。

「ものの見方」はそれぞれ違って当たり前です。でも、一つの見方だけにこだわらずに、「違う見方はないかな」「これのよさはどこかな」と考えた方が楽しくなるし、人生が豊かになるんじゃないかなと思います。ぜひいろいろな角度からものを見てみてください。

それではこれで話を終わります。